

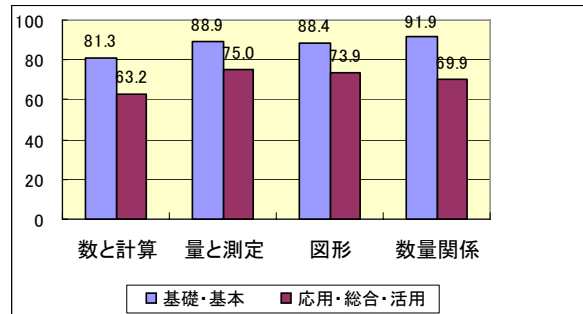
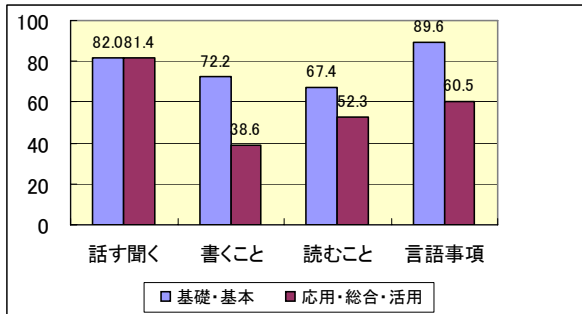
平成21年度京都府小学校基礎学力診断テスト 実施及び結果の概要
府内児童の基礎学力はおおむね定着、「活用」する力を伸ばす指導の工夫・改善が必要

平成21年7月10日
 学校教育課

- 1 実施日 平成21年4月10日（金）～4月17日（金）
- 2 実施対象 府内全小学校（246校）・特別支援学校（1校）の第4学年児童
- 3 実施教科及び受検者数 国語（11,157人） 算数（11,167人）
- 4 目的
 学習指導要領に示す目標や内容に照らして、基礎的・基本的な内容等が確実に身に付いているかを的確に把握するとともに、その結果を分析することにより、各小学校における授業改善を推進し、学力の充実・向上に向けての実践に資する。
- 5 問題内容
 - (1) 出題範囲
 小学校3年生までの学習内容。
 - (2) 問題内容
 個々の児童の解答状況から学習課題を分析できるような問題を出題した。問題内容は教科書程度とした。
 - (3) 問題類型
 基礎的・基本的な問題…基礎的・基本的な知識や技能を問う問題
 応用・総合・活用的な問題…既習事項を関連付けて解いたり、段階的に思考・判断を重ねたりして解く問題や知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などを問う問題
- 6 結果の概要

【国語】		
基礎的・基本的な問題	76.7%	68.9%
応用・総合・活用問題	57.0%	

【算数】		
基礎的・基本的な問題	85.2%	79.2%
応用・総合・活用問題	70.2%	



※ 数値はすべて正答率（%）

【国語】

- (1) 基礎的・基本的な内容については、おおむね学力は定着している。「話す聞く」、「言語事項」の領域においては、十分な定着状況が見られる。
- (2) 接続語や主語と述語の関係を問う問題などの言語事項の領域において、昨年度より改善の状況が見られる。
- (3) 応用・総合・活用的な内容については、条件に従って文章を書いたり、文章から読み取った内容に関して自分の考えをまとめたりすることについて指導の工夫・改善が必要である。

【算数】

- (1) 基礎的・基本的な内容については、おおむね学力は定着している。どの領域においても、十分な定着状況が見られる。
- (2) 立体図形の辺を数えたり、直角三角形を選んだりする問題などの図形の領域において、昨年度より改善の状況が見られる。
- (3) 応用・総合・活用的な問題の正答率はほぼ7割で、数学的な考え方を活用して問題を解決することが身に付いてきている。